

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		旭川市愛育センター（児童発達支援）			公表日		令和8年3月16日	
		チェック項目	はい	いいえ	無回答 その他	工夫している点・改善が必要と思われる点など	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	50			・子どもたちがのびのびと活動できるスペースを確保できている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	48	2		・国の基準以上での配置をしている。 ・こどもの状況により、安全を重視した配置を行っている。 ・配置数がきっちりすぎて保護者と話したり必要な場面で指導に時間がとりにくい。	・基準より多く職員を配置しております。児童や保護者により良い療育が提供できるよう検討してまいります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	45	5		・場所、部屋により視界に入るものの量が多すぎると感じるが、子どもの視界を考えて工夫している。 ・段差はある ・築年数が45年を超えており、建設当時の療育空間を活用しているため、全体としての構造化された環境とまでは言えない。 ・子どもトイレが使いにくい。 ・可能な限り工夫している。 ・施設が古く、バリアフリー化は難しい。	・設備につきましては老朽化しているものも多々ありますが、利用者が快適に利用できるよう現状の設備を工夫するほか、優先順位の高いものから修繕等を行ってまいります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	45	5		・利用者が過ごす場所は、調整日に掃除と点検をしている。 ・建物の古さは仕方ない中でキレイに使われていると思う。 ・エアコンがないので夏のプレイルームが暑い ・毎日の清掃及び使用した玩具などの消毒を十分に行い、清潔な環境を維持している。	・清掃を徹底するよう努めます。 ・職員全員が環境整備や衛生環境に配慮し心地よく過ごせる環境を保つように努めます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	48	1	1	・空きスペースを活用。	・空間の有効活用を心掛けてまいります。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	49	1		・業務課題があった場合は、各職種での会議を都度開催し改善につなげている。また、日々の療育に当たっては、毎回事前に職員会議を行い情報共有を行っている。	・PDCAサイクルは仕事上、必要な業務の一環とされています。職員一人ひとりが業務に対し目標と見直しを日々行うよう再度共通認識を深めます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	49	1		・保護者の方の意見や日頃の思いなど、気軽に伺えるよう、保護者が意見を言いやすい雰囲気となるよう努めている。 ・改善が必要な場合は対応に努めている。 ・面談時に確認している。	・保護者からの意見や要望には、全職員で共有し改善に努めます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	49	1		・職員の意見を確認するため、定期的な面談を実施している。	・職員の面談等で意見等があった際は、必要事項について検討してまいります。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	42	5	3	・第三者評価を行っていない。	・第三者評価は現在は行っておりませんが今後、検討してまいります。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	50			・外部研修や内部研修など、機会を捉え積極的に参加している。 ・専門研修、オンライン研修にも参加し、全体のスキルアップを図っている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	50			・児童発達支援センターとしての支援内容など、理念、方針を含めたプログラムを作成し、ホームページで公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	50			・丁寧な面談を通じ、子どもの姿や保護者の思いに沿った計画作成にあたっている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	50			・必ず、実際の療育に携わる支援員が同席し、共通理解のもと、計画を作成している。		

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	50			・職員間の情報共有を図り、それぞれの児童の計画に沿った支援ができるように努めている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	49	1		・日々の療育状況について、支援内容を記録し、確認している。	・様々な場面で保護者に聞き取りした児童の様子を支援に繋げていけるように、職員間で確認してまいります。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	50			・具体的な支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	50			・各クラスにおいて、職員間で協議し、活動プログラムを策定している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	50			・経験の積み重ねによる療育指導を中心としながら、季節に合った遊びや日々の生活にも取り入れられる遊びの工夫などに取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	50			・集団療育を中心としながら、個別課題（言語、理学、作業）の訓練を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	49	1		・毎朝、活動や役割分担等について、職員会議で確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	50			・支援後、各クラス担当において共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	50			・日々の支援記録をとり、共通認識できるよう努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	50			・年に2回、保護者との個別面談を設け、見直しや確認を行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	49	1			・担当者会議や関係機関との会議には担当の職員もしくは児発管が参加しております。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	50			・医療関係者や保育所などについて、共通の理解が図られるよう、連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	50			・併行利用に関する保護者からの相談のほか、受け入れている保育所、幼稚園に対して、必要に応じ訪問などによる情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	50			・必要に応じ、情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。	48	2		・市が特定する児童発達支援センター機能強化事業所が開催する研修に積極的に参加している。	・児童発達支援センター会議に参加しております。 ・地域の児童発達支援事業所等からの問い合わせや協力依頼等があった際は、適宜対応しております。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	49	1		・児童発達における専門医からの助言をいただくほか、専門職研修に積極的に参加している。	・外部研修には積極的に参加しており、研修の報告を都度行い職員で共有するようしております。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	48	2		・会議開催の際は、必ず出席している。	・自立支援協議会に部会構成員として、こども部会及び相談支援部会に参画しています。部会内容等は報告書で職員に共有しております。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	—	—	—		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	49	1		・近隣の保育園や市立保育所との交流保育を実施している。 ・単身通所にて、2か所の園と交流保育を実施している。	・単身通所グループでは、近隣の保育所や市立保育所と交流保育を行っております。	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	49	1	・送迎時や連絡ノートを通じ、日々の状況を伝えていくほか、月に2回の療育参加日を設け、児童の様子について、共通理解を図っている。	・業務時間内で業務が行えない部分があるのであれば検証する必要があるため、効率的な作業の行い方を検討します。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	49	1	・ペアレント・プログラムの開催のほか、保護者教室、保護者交流会を実施している。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	50		・すべての保護者に支援内容を説明し、同意を得ている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	50		・支援計画作成に当たっては、保護者の意向を確認しながら、作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	50		・支援計画作成後に、保護者に説明し、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	50		・日頃から、保護者に寄り添い、話をする機会を設けている。・療育終了後に、時間を設け、十分な時間をとって相談に応じる場合もある。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	49	1	・保護者交流会の開催や、保護者教室を通じた支援を行っている。 ・保護者交流会を計画、実施しているが参加者が少ない。	・保護者教室や保護者交流会を年に複数回設けています。内容等は保護者からの意見を取り入れながら検討してまいります。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	50		・担当職員での対応のみにせず、全体で話し合うなど、解決に向けて対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	50		・毎月のセンターだよりとともに、年間行事を配布している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	50		・職員に対し、個人情報の取扱いに注意するよう、喚起している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	50		・子どもや保護者の状況に合わせたコミュニケーションの取り方を心掛けている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	41	8	1	・現在は行われていないが、園庭の開放やセンターまつりなど、地域に開かれた事業所運営について検討中。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	50		・それぞれのマニュアルについては、廊下に掲示し、保護者を含めた訓練を実施している。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	50		・BCPを策定済みであり、災害を想定した訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	50		・入所の際に保護者に確認するとともに、随時確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	50		・主治医の指導のもと、毎回の給食にて、調理師、栄養士、担当職員が目視のうえ、除去の確認を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	48	2	・安全に関するマニュアルは各種あるが安全計画としてまとまてはいない。	・安全計画は今年度中に作成し、計画内容等を周知いたします。 ・防災等については必要な法定訓練や研修を行っております。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	49	1	・災害時の連絡体制、引き渡しの方法の確認は各家庭で行っている。 ・児童への安全指導について、保護者だよりにて対応を説明している。	・今年度、災害訓練の一つに保護者の方にも御協力いただき、引き渡し訓練を行いました。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	49	1	・ヒヤリハット事例については、全職員で共有し、再発防止のための対策を確認するとともに、事例の取組とその分析を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	49	1	・虐待防止マニュアルの策定及び委員会を定期開催するとともに、虐待に関する内部研修については、職員全員を参加させている。	

53	<p>どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。</p>	49		1	<p>・身体拘束等の適正化のための指針を整備し、緊急時や、やむを得ないのみ、極めて限定的な運用とすることとしている。</p>	
----	---	----	--	---	--	--